



小田川 謙一 議員

質問

将来的な両中学校の在り方は

町長

小中一貫を推進する



仁多・横田中学校

質問 将来的な両中学校の在り方について、検討すべき時期にきている。統合して一校にするのか、仁多地域・横田地域で小中一貫的な考え方にするのか等、今後どのような形で検討を進めるのか。

町長 今後の生徒数の推計値、また今年度の出生状況等、自然動態だけを考えると極端な現象が見込まれる。これを踏まえて9年間を通した

有機的な結びつきのある小中一貫を推進することを本年3月に改訂した教育大綱に掲げている。ここ数年後の出生の動向を見つつ、小中学校を一つに固めた方がいいのか、義務教育学校という形で行った方がいいのかという点も含めて、子どもの負担というのでも考えて適切な時期に検討委員会を立ち上げ、協議することが必要と考える。

質問 横田高校及び島根デザイン専門学校の生徒・学生受け入れ体制として、住居の確保は十分に対応できる状況にあるか。

生徒・学生の住居の確保は

ある県営の横田教員住宅の利活用をはじめ、県公社住宅、また民間住宅の空き家情報などと連携しながら住宅確保を図る。

質問 両中学校の部活動の一体化、また部活動の地域移行の現在の取り組み状況は。

教育長 女子バレー部は、各中学校での部活動は残しつつ、週末には、ジュニア

バレーボールクラブをお願いし、合同練習をしている。ホッケーは、部活動指導員を本年度から3名配置して、平日の練習や週末の練習指導を中心に行っている。

他の活動については、当面の間部活動を残し、指導員の配置や外部指導員によるサポートで対応し、地域団体が受け皿となっていただけのもは、地域クラブ化へとシフトしていく。



空き室が多くある横田教員住宅

町長 横田高校については、3人部屋を4人部屋にすることで定員増を図る。また「コンソーシアム」役員会において、アパートや下宿、シェアハウス等についても継続的に検討していく。島根デザイン専門学校については、本年度36名の入学があり、来年度以降はさらに60名の入学を目指すとしている。これに対応するため、関係課と連携して対応できるよう進めている。空き室が多く